

様式 1 1

川づくり団体」部門

## 河川基金助成事業

「藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業」

助成番号： 2023 - 6112 - 016

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会  
実行委員長 坂野 一博

2023 年度

様式 8

1. 川づくり団体部門

[概要版報告書]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6112-016	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野 一博
<b>活動の目的</b>		
<p>2023 年度の河川基金助成事業においては、「ラムサール条約登録湿地である藤前干潟の清掃活動を継続する」、「マイクロプラスチックや釣りごみ等の新たに大きく問題となってきたごみを減らす」、「藤前干潟や流域の現状を広め、生活や社会から出るごみについて考え行動する機会を提供し、流域の河川環境保全を推進する」という目的を掲げた。</p>		
<b>事業テーマ</b>	(申請書に記載した「申請テーマ」を記載してください。)	
<b>助成事業の要旨</b>	<p><b>〔実施内容〕</b></p> <p>(1) 第 38 回' 23 春の藤前干潟クリーン大作戦 (2023 年 5 月 20 日 (土)) の開催            実施内容：ごみ清掃、土岐川・庄内川の水質調査、マイクロプラスチック収集等            参加人数：1,532 名※対象はどなたでも            ごみ収集量：897 袋 (45L のごみ袋、内マイクロプラスチックは 81 袋)</p> <p>(2) 第 39 回' 23 秋の藤前干潟クリーン大作戦 (2023 年 10 月 28 日 (土)) の開催            実施内容：ごみ清掃、土岐川・庄内川の水質調査、干潟の生きもの観察会、マイクロプラスチック収集            参加人数：2,008 名 (干潟の生きもの観察会には 63 名) ※対象はどなたでも            ごみ収集量：1,435 袋 (45L のごみ袋、内マイクロプラスチックは 48 袋)</p> <p>(3) 三郷のクリーン大作戦 (2023 年 10 月 21 日 (土)) への参加            参加内容：ごみ清掃活動、土岐川・庄内川の上流と下流の交流            参加人数：当実行委員会から 3 名</p> <p>(4) 第 11 回ごみと水を考える集い (2024 年 3 月 2 日 (土)) の開催            実施内容：漁業における混獲と海洋ごみの講演、釣りごみの現状共有と意見交換、ごみが生まれにくい社会創りの 7 項目の採択、藤前干潟を見るエクスカージョン            参加人数：82 名 (エクスカージョンには 22 名) ※対象はどなたでも</p> <p>上記の (1)～(4) を実施するにあたって、河川管理者 (国土交通省庄内川河川事務所、愛知県尾張建設事務所) や環境省中部地方環境事務所、名古屋市からの指導・講師派遣、港環境事業所からのごみ処理、そして企業や市民団体・名古屋港管理組合からの仮設トイレ設置、物資提供等の様々な支援をいただいた。</p> <p><b>〔成果〕</b></p> <p>20 年目の活動となった 2023 年度も 2 回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」を多くの参加者と一緒に行い、<u>清掃活動を継続できた。マイクロプラスチックについては大規模な収集を行い、129 袋 (45L のごみ袋) を取り除くことができた。</u> 釣りごみについては、「第 11 回ごみと水を考える集い」において、釣りごみの現状や対策等を取り上げ、藤前干潟や他地域の人々が意見交換をし、できることを考える場を提供できた。</p> <p>これらの活動を通して、<u>藤前干潟や流域、海のごみ等の現状を見て、知って、考えて、行動する機会を非常に多くの人に提供でき、流域の河川環境保全の推進に貢献できた</u>と考えている。</p> <p><b>〔今後の展望〕</b></p> <p>長年にわたって継続してきた活動と多くの関係者の協力により、「藤前干潟クリーン大作戦」はコロナ禍を経ても参加者が減らず、確実に地域や流域に定着している。一方で、実行委員会の構成団体等のメンバーには高齢化という問題が変わらず存在している。今後も長く活動を継続していくために、若い世代の新規の参入を目指し続けるとともに、負担軽減策を今後も工夫して考え、体制を維持していきたい。</p> <p>また、新たに取組みはじめた<u>マイクロプラスチックや釣りごみへの取組も継続し、地域や流域の関係者とともに発展させて、藤前干潟とその流域のごみ削減を主とする環境改善とごみの生まれにくい社会づくりへの貢献を目指していく。</u></p>	

※ポイントとなる事項に適宜アンダーラインを引いてください。

様式9

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6112-016	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野 一博
助成事業実施成果の自己評価	<p><b>【計画の妥当性】</b></p> <p>計画していた2回の大規模清掃活動「第38回'23春および第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦」、土岐川・庄内川最上流の清掃活動「三郷の川のクリーン大作戦への参加」、そして「第11回ごみと水を考える集い」を多くの協力を得て無事に行うことができた。</p> <p>「藤前干潟クリーン大作戦」の計画に際しては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴う参加者の増加を想定し、駐車場の確保とスムーズな駐車誘導、車の相乗りの呼びかけ等の対策を念入りに行うとともに、活動時の安全確保について関係者と打合せを重ねた。その結果、第38回'23春および第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦ともにそれぞれ前年度の同時期の活動よりも多くの参加者（春は1,532名、秋は2,008名）を受け入れ、多くのごみを収集することができた。そして、この活動を通して非常に多くの参加者に藤前干潟のごみと水の現状を伝え、河川環境保全やごみについて考える機会を提供できたと考えている。</p> <p>流域の抱える問題の現状と交流を深めることを主目的として開催した「第11回ごみと水を考える集い」には、82名もの多くの参加者があった。藤前干潟や伊勢・三河湾とつながる海の現状や課題を共有し、それぞれができることを考える集いとなった。</p> <p><b>【当初目標の達成度】</b></p> <p>2回の「藤前干潟クリーン大作戦」の活動において3,540名（延べ）の参加者で、2,332袋（45Lのごみ袋）のごみを収集するという大規模な清掃活動を行うことができ、成果目標のひとつとしていた清掃活動の継続については達成できた。</p> <p>前年度からの課題となっていたマイクロプラスチックごみの削減については、関係者で収集方法を検討し、藤前干潟クリーン大作戦の中で大規模な収集を行い、計129袋（45Lのごみ袋）を取り除くことができ、取り組みを発展させることができたと考えている。釣りごみの削減については、他の事業が力を入れて清掃活動をしたため、当事業では「第11回ごみと水を考える集い」において他地域との現状共有や意見交換を行い、啓発に注力した。これによって、藤前干潟や流域の人々が釣りごみの問題とそれぞれができることを考える場を創出できた。マイクロプラスチックと釣りごみ問題については、今後、どのように取り組みを発展させるかを検討していきたい。</p> <p><b>【助成事業の効果】</b></p> <p>長年にわたって継続してきた活動と多くの関係者の協力により、「藤前干潟クリーン大作戦」はコロナ禍を経ても参加者が減らず、地域や流域に深く根付いたものとなっている。これは多くの人が清掃活動等を通して、藤前干潟やそこにつながる河川、海の環境保全の重要性を知り、行動し続けている結果であると考えている。また、新規の参加者も獲得しており、今後の活動の継続にも結び付いていくと期待している。</p> <p><b>【河川管理者等との連携状況】</b></p> <p>藤前干潟に注ぐ河川の河川管理者である国土交通省庄内川河川事務所と愛知県尾張建設事務所には、活動に際して、指導やアドバイス等の支援を受けた。さらに、環境省中部地方環境事務所にも活動の協力を受け、生物保全や干潟観察会等においてアドバイスを得た。</p> <p>この他、名古屋市とも非常に深く連携しており、港環境事業所には大量のごみの回収と処理をしていただいた他、名古屋市環境局より熱中症対策物資提供等の協力を受けた。</p> <p><b>【キーワード】</b></p> <p>藤前干潟、ごみ清掃活動、マイクロプラスチック、流域、ごみのうまれにくい社会</p>	

## 1. 活動の概要

### 1.1 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動目的

土岐川・庄内川、新川、日光川の河口にある藤前干潟（名古屋市港区および飛島村）は長年の市民活動によってごみ埋め立てを免れ、2002年11月に国設鳥獣保護区の指定とともにラムサール条約の登録地となった。日本有数の渡り鳥の飛来地である藤前干潟は、生命のつながりと私たちの暮らしのあり方を教えてくれる貴重な場所となった。しかし、ラムサール条約登録当時の藤前干潟とその周辺の護岸は上流から流れてきたペットボトルやビニール袋、発泡スチロールなどの石油原料の製品ごみに覆われており、流域住民の良識が問われかねない状況にあった。

このような状況を改善するため、藤前干潟やその流域で活動していた私たちは2004年10月に「①ラムサール条約に恥じない藤前干潟にする」、「②子供達が安心して遊べる干潟や川を取り戻す」、「③流域全体のごみや水のことを考えるネットワークを形成する」の三つの目標を掲げて「藤前干潟クリーン大作戦実行委員会」を結成した。その後、年2回の藤前干潟の大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」を行いつつ、上下流・伊勢湾でつながる団体との連携した活動を進めるとともに流域一帯で「ごみゼロ」を目指す啓発活動を行ってきており、2023年度で20年目の活動となった。

### 1.2 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の構成

2004年に「NPO法人エコストック実行委員会」と「土岐川・庄内川流域ネットワーク」、 「NPO法人藤前干潟を守る会」、「リバーサイドヒーローズ・多治見さかなの会（現在は河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ）」の土岐川・庄内川で活動する4市民団体を構成団体として藤前干潟クリーン大作戦実行委員会は発足した。その後、徐々に活動を広げ、2006年春に「NPO法人モリゾー・キッコロと環境活動を推進する会」が、2010年春に「庄内川川ナビ歩こう会」が、2011年6月に「IPG（産業廃棄物専門家集団）」が、2015年春に「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」、「土岐川・庄内川源流森の健康診断実行委員会（現在は土岐川・庄内川源流の森委員会）」、「名古屋市稲永スポーツセンター」、「なごや舞祭衆」、「一般社団法人ClearWaterProject」、「萌木舎」、「中部大学ボランティア・NPOセンター」が、そして2016年4月に「名古屋野鳥観察館」が加わり、2017年3月には、「愛地クリーンプロジェクト」と「中部大学上野研究室」が加わった。

その後、2019年3月に「愛地クリーンプロジェクト」が、2019年6月に「なごや舞祭衆」が退会し、現在は15団体で活動している。

### 1.3 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会のこれまでの取り組み

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の最も大きな活動である年2回実施の大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」については、2023年度までに39回を企画し、雨天や新型コロナウイルス感染症感染拡大防止による中止はあったものの、参加者は延べ46,081名、収集したごみは45Lごみ袋で延べ54,736袋に及んでいる（図1.1および表1.1参照）。

この他、土岐・庄内川や伊勢湾の上流、下流におけるごみ清掃活動に参加したり、流域で活動する人たちとごみと水を考える集いを開催したりするなど、上下流域との交流を図り、深めてきた（当実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動については別紙1参照）。

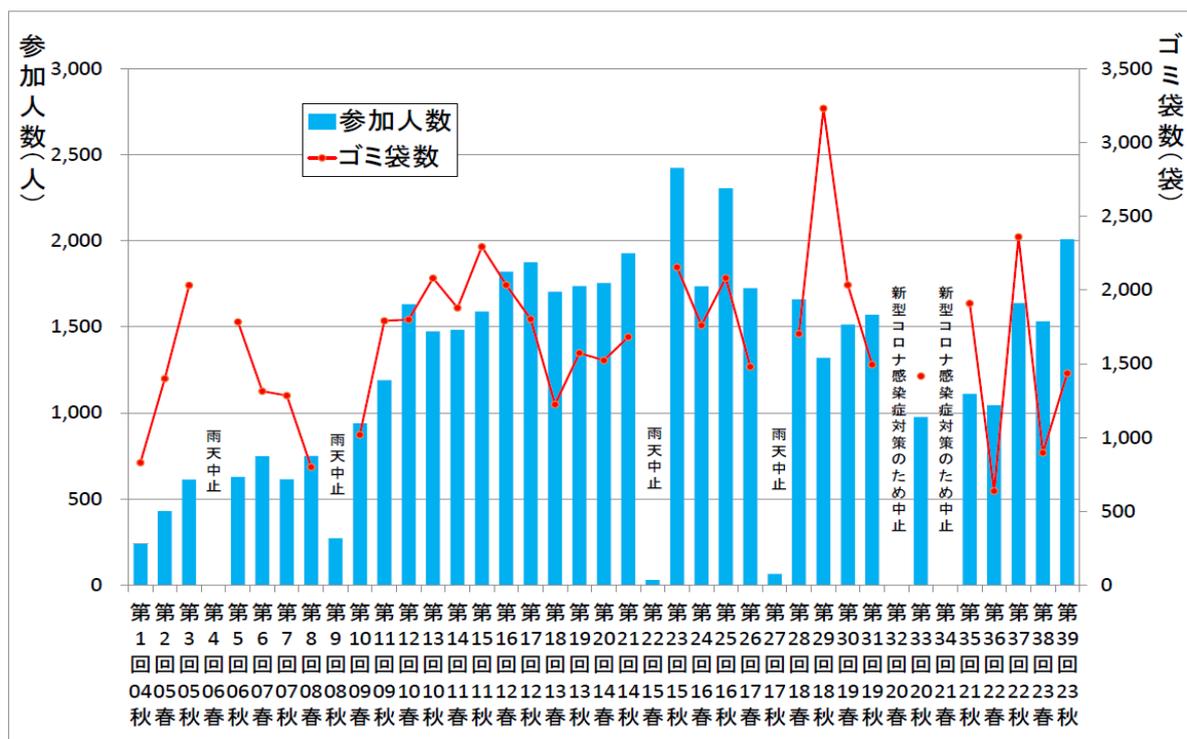


図1. 1 今までの藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)の推移

回数・時期	参加人数	ゴミ袋数
第1回 04秋	240	830
第2回 05春	430	1,400
第3回 05秋	612	2,032
第4回 06春	雨天中止	雨天中止
第5回 06秋	628	1,784
第6回 07春	748	1,314
第7回 07秋	614	1,284
第8回 08春	750	800
第9回 08秋	271	雨天中止
第10回 09春	939	1,018
第11回 09秋	1,190	1,791
第12回 10春	1,632	1,800
第13回 10秋	1,474	2,080
第14回 11春	1,483	1,879
第15回 11秋	1,589	2,293
第16回 12春	1,821	2,034
第17回 12秋	1,876	1,802
第18回 13春	1,704	1,224
第19回 13秋	1,737	1,573
第20回 14春	1,755	1,523
第21回 14秋	1,928	1,681
第22回 15春	30	雨天中止
第23回 15秋	2,424	2,154
第24回 16春	1,735	1,761
第25回 16秋	2,305	2,081
第26回 17春	1,724	1,480
第27回 17秋	65	雨天中止
第28回 18春	1,661	1,704
第29回 18秋	1,321	3,231
第30回 19春	1,514	2,034
第31回 19秋	1,570	1,495
第32回 20春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第33回 20秋	977	1,416
第34回 21春	新型コロナウイルス感染症対策の為中止	新型コロナウイルス感染症対策の為中止
第35回 21秋	1,111	1,909
第36回 22春	1,045	637
第37回 22秋	1,638	2,360
第38回 23春	1,532	897
第39回 23秋	2,008	1,435
合計	46,081	54,736

表1. 1 今までの藤前干潟クリーン大作戦の参加人数と収集したごみ袋数(45Lのごみ袋)

## 2. 活動の内容

### 2.1 活動日・場所・目的・内容等

#### (1) 第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2023年5月20日（土）

場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川河口一帯）の藤前会場および名古屋市港区の8学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、福田、南陽（2会場））の計10会場

目的：①藤前干潟をラムサール条約に恥じない、ごみがなくきれいで安全な場所にする。

②藤前干潟のごみ問題の現状を広める。

③多種多様な立場の参加者間で交流を深める

④藤前干潟やその流域の保全、ごみの生まれにくい生活について考える機会を提供する。

⑤マイクロプラスチック問題について普及啓発を図る。

内容：ごみ清掃活動、外来植物の駆除活動（一部の学区会場）、土岐川・庄内川の水質調査（藤前会場）、マイクロプラスチックの収集（藤前会場）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

共催：庄内川・新川沿い（名古屋市港区）の各学区連絡協議会および各学区保健環境委員会

※藤前干潟ふれあい事業（事務局：名古屋市環境局）の協力事業

※海ごみゼロウィーク2023に参加

案内チラシ（別紙2参照）：以下を5,000部印刷、配布

#### (2) 第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦の開催

日程：2023年10月28日（土）

場所：藤前干潟（土岐川・庄内川、新川、日光川河口一帯）の中堤会場および藤前会

場、名古屋市港区の8学区会場（明德、当知、高木、神宮寺、港西、野跡、福田、南陽（2会場））の計11会場

目的：(1)と同様

内容：ごみ清掃活動、土岐川・庄内川の水質調査（中堤会場）、干潟の生きもの観察会（中堤会場）、マイクロプラスチックの収集（藤前会場）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

共催：庄内川・新川沿い（名古屋市港区）の各学区連絡協議会および各学区保健環境委員会

※藤前干潟ふれあい事業の協力事業

※海ごみゼロウィーク2023に参加

案内チラシ（別紙3参照）：以下を5,000部印刷、配布

**第39回伊勢湾ゴミ流出防衛最前線!**

# 藤前干潟 クリーン大作戦

2023年10月28日(土)

雨天中止  
開催可否は、当日の朝6時までに、  
実行委員会のホームページにてお知らせします。

協力してキレイにします!

### 藤前干潟クリーン大作戦とは

以下の3つの目標を掲げて、ラムサール条約登録地である「藤前干潟」周辺の漂着ごみを清掃します。この活動は「藤前干潟」の先伊勢湾、さらにはその先の海へ流れるごみを減らすことにもつながります。

#### 3つの目標

- ラムサール条約に馴染めない藤前干潟にする
- 子どもたちが安心して遊べる干潟や川を取り戻す
- 流域全体のごみや水のことを考えるネットワークを形成する

#### スケジュール

受付：中堤会場・藤前会場は午前9時30分～  
清掃活動：午前10時～11時30分頃  
順次終了（まとめの会は行いません）  
※事前申込不要  
※当日、受付シートを提出してください。  
※学区会場については、各学区にお問合せください。

#### 問合せ先

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局(財団)  
TEL: 090-6399-9774 Email: clean@fujimaie.com  
URL: <https://clean@fujimaie.com> / [jrodive.com/](https://jrodive.com/)

#### 会場

藤前干潟・庄内川・新川河口(名古屋市港区)にある中堤会場・藤前会場・学区会場

#### 持ち物・服装

参加受付シート (HPから印刷してください)  
飲み物・帽子・タオル・軍手  
汚れても良い服・運動靴 (または長靴)

河川基金

### 干潟観察会について

午後から「中堤会場」にて干潟観察会を開催します(定員60名、先着順・事前申込)。※清掃活動をされる方が対象です。干潟観察会のみでの参加はできません。

#### 参加を希望される方は、

電話、またはメールでお知らせください。  
参加者の代表者名  
代表者の連絡先(電話番号・住所)  
参加人数 大人 ○名、子ども ○名

#### 持ち物

問合せ・申込先  
ふくらばさまの厚手の靴下、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局(財団)  
TEL: 090-6399-9774  
※傘・着替え  
Email: clean@fujimaie.com

#### アクセス

駐車場が不足する可能性があるため、相乗りでご協力ください。満車の場合は参加できませんのでご了承ください。大型バスで参加される団体等は予めメールまたはお電話にてご相談ください。

#### 中堤会場

中堤会場入口：名古屋市中区下二色三河湾

#### 藤前会場

藤前会場：名古屋市中区藤前2丁目

#### アクセス

中堤会場から三河湾まで  
①JR東海「伊勢湾」下車 → 徒歩約15分  
②地下鉄有線「東海」下車 → 徒歩約15分  
③バス「東海」下車 → 徒歩約15分  
④タクシー「有線」下車 → 徒歩約15分

#### 藤前会場

藤前会場から三河湾まで  
①JR東海「伊勢湾」下車 → 徒歩約15分  
②地下鉄有線「東海」下車 → 徒歩約15分  
③バス「東海」下車 → 徒歩約15分  
④タクシー「有線」下車 → 徒歩約15分

#### 参加にあたってのお願いと注意事項

事前申込は必要ありませんが、受付シートを当実行委員会のHPから印刷し、事前記入後に受付に提出し、参加してください。(得られた個人情報は本活動の目的以外には使用しません。)  
汚れても良い運動靴か長靴でご参加ください。  
(サンダル等の履物で危険と判断される場合は、参加をお断りすることがあります。)  
汚れても良い服装でご参加ください。  
ごみ袋は主催者が準備します。  
熱中症、ケガにはくれぐれも気をつけてください。  
熱中症の危険がありますので、飲み物をお持ちいただく他、帽子や汗拭きタオルなどの対策をお願いします。  
感染症にも留意し、適宜、うがいや手洗いに努めてください(受付には手指消毒液を用意します)。  
体調不良の場合は参加を控えてください。人と人の距離の確保に留意ください。  
大きな声を出さないでください(緊急時を除く)。  
安全確保のため、主催者の指示に従ってください。  
本活動参加中に発生した傷害については、主催者が加入する傷害保険の範囲内での応急処置を行います。その後の処置については保険適用外となります。

### (3) 三郷のクリーン大作戦への参加

日程：2023年10月21日（土）

場所：岐阜県恵那市三郷町野井（土岐川・庄内川の最上流）

目的：土岐川・庄内川の最上流である三郷の現状を知り、地元で活動している人々（三郷の川をきれいにする会）と交流を図る。

内容：ごみ清掃活動、土岐川・庄内川の上流と下流の交流

### (4) 第11回ごみと水を考える集いの開催

日程：2024年2月3日（土）

場所：藤前会館（名古屋市港区藤前1-742）

※エクスカージョンは環境省稲永ビジターセンターおよび名古屋市野鳥観察館で実施

目的：①藤前干潟と伊勢湾・三河湾の流域のごみと水について活動する人々が集まり、交流を深める場を提供する。

②一般にはあまり知る機会のない漁業における混獲や海洋ごみの問題を知り、藤前干潟や伊勢・三河湾とつながる海の問題を考える。

③藤前干潟でコロナ禍を機に大きくなった釣りごみ問題について現状を共有し、意見交換を行う。

内容：漁業における混獲と海洋ごみに関する講演、釣りごみ問題に関する発表と意見交換、ごみが生まれない社会づくりを目指すアピール7項目の採択、藤前干潟や野鳥を見るエクスカージョン（希望者のみ）

主催：藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、土岐川・庄内川源流の森委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人四日市ウミガメ保存会

案内チラシ（別紙4参照）：以下を500部印刷、配布

## 2.2 活動に向けた事前の取り組み

### (1) 第38回'23春および第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦

前年（2022年）の秋の藤前干潟クリーン大作戦開催日（10月22日）までに、「第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦」と「第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦」の開催日をそれぞれ5月20日（土）と10月28日（土）に決定した。前年の秋の藤前干潟クリーン大作戦開催時から翌年の開催日の周知をはじめ、より多くの人に藤前干潟クリーン大作戦に参加・協力してもらうよう努めた。

2023年1月より「第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦」の、2023年6月より「第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦」の具体的な計画と準備をはじめ、毎月ほぼ1回の実行委員会のミーティングを行って活動の具体化を図るとともに、現地確認や現地整備（草刈り等）、管理者との調整、協力団体・機関への要請、広報（ホームページ掲載、チラシ送付等）、安全（熱中症含む）対策用品等の必要物品の調達、駐車場の確保等を行った。

なお、2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、感染症対策は大幅に緩和、参加者やスタッフに体調不良の場合は参加を控えること、手洗いとうがいの励行などを呼びかけるなどした。

### (2) 三郷の川のクリーン大作戦

主催者である「三郷の川をきれいにする会」と密に連絡を取り合い、参加した。

### (3) 第11回ごみと水を考える集い

第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦終了後の11月から準備をはじめ、企画を立てた後、協力団体・機関への要請や登壇の要請、会場確保、広報（ホームページ掲載、チラシ送付等）、配布資料等作成などを行った。

## 2.3 活動の成果

### 2.3.1 参加人数および収集したごみの量等

#### (1) 第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦

10会場で計1,532名が参加した。収集したごみの量は45Lゴミ袋で計897袋（内、マイクロプラスチックに特化して回収したのは81袋）であった。各会場における収集したゴミ袋数（45Lのゴミ袋）と参加者数の内訳は表2.1のとおり。また、参加団体および協力団体は以下であった。

<参加団体>

- 地元自治会—港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区港西学区協議会、港区港西学区保健環境委員会、港区野跡学区協議会、港区野跡学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会
- 市民団体等—IPG（産業廃棄物専門家集団）、かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川ナビ歩こう会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、萌木舎、日本野鳥の会愛知県支部、OGMボランティアなごや
- 会社・法人等—NTT西日本東海支店、愛知銀行名南支部、愛知県保険医協会、あおみ建設株式会社名古屋支店、旭運輸株式会社、イオンスタイル名古屋茶屋、一般社団法人庄内川災害対策協力会、一般財団法人みなと総合研究財団、一般社団法人パブリックサービス名古屋事業所、伊予銀行、宇佐美工業株式会社、小川工業株式会社、株式会社愛工機器製作所、株式会社エイテック、株式会社大竹組、株式会社大本組名古屋支店、株式会社おかむら、株式会社小島組、株式会社佐賀電算センター、株式会社セイブ、株式会社拓進工営、株式会社日さく西日本支社、株式会社橋本潜水興業、株式会社長谷工コーポレーション東海エリア長谷工グループ、株式会社フジトランスコーポレーション、株式会社不動テトラ中部支店、株式会社舟橋塗装店、株式会社丸二運送、株式会社安江工務店、株式会社ローソン中部カンパニー、鴻池運輸名古屋定温流通センター営業所、コヅカテクノ株式会社、シーライフ名古屋、新晃コンサルタント株式会社、大日本土木株式会社、継美隊728三河湾、東亜建設工業株式会社名古屋支店、東海緑化株式会社、徳倉建設株式会社、豊田合成株式会社、豊田通商株式会社、名古屋汽船株式会社、日起建設株式会社、日本海工株式会社名古屋支店、日本振興株式会社、日本道路株式会社中部支店・名古屋営業所、エヌディーリース株式会社、パシフィックコンサルタンツ、日比谷総合設備グループ、ブラザーインターナショナル株式会社、水野建設株式会社、南医療生活協同組合、みらい建設工業株

式会社中部支店、明治安田生命保険相互会社名古屋南支社、メタウォーター株式会社、泰成興業株式会社、寄神建設株式会社、吉田工機株式会社、りんかい日産建設株式会社名古屋支店

- 教育機関等—中部大学ボランティア・NPOセンター、seawase（名城大学サークル）、愛知県立南陽高等学校、名城大学付属高等学校自然科学部、東海学園高等学校
  - 行政機関・公共施設—愛知県建設局河川課、三重県環境生活部大気・水環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所・庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市稲永スポーツセンター（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽交流プラザ
  - 議員等—愛知県議会議員直江弘文事務所、名古屋市議会議員吉田茂事務所
  - 報道—テレビ愛知（海と日本プロジェクトin愛知県）、あつたみなとホームニュース
- <協力団体>

設トイレ設置：大日本土木株式会社、ごみばさみ・拡声器等提供：豊田合成株式会社、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、熱中症対策物資等提供：藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局環境企画課）、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L・袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川災害対策協力会
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	2	1	40	43			46		2	48	24
当知学区	2		56	58	ビニールシート 木材	1 2	48		2	50	28
高木学区	6	5	40	51			50		2	52	23
神宮寺学区	10	5	38	53	タイヤ	2	70		2	72	計75
港西・稲永学区	2	2	17	21	クーラーボックス フラ箱 木枠	1 1 1	82		3	85	
野跡学区	4	1	53	58			110		3	113	
当知陸開 小計	26	14	244	284							
福田学区	6		90	96				30		30	
南陽① 福田ポンプ所前	10	10	60	80	タイヤ パーペキューセット 木材片	1 1 数個		41		41	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路	7	1	112	120				95		95	
港区参加 学区関係 小計	49	25	506	580			572	0	14	586	
中堤				0						0	
藤前第1	4	1	242	247							
藤前第2	1	1	23	25	ソファ タイヤ	1 12		945	1	946	
藤前第3	3	3	39	45							
藤前・中堤 小計	8	5	304	317			0	945	1	946	
合計	57	30	810	897			572	945	15	1,532	

表2. 1 第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのご

## み袋)と参加者数等

### (2) 第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦

11会場で計2,008名が参加した。収集したごみの量は45Lゴミ袋で計1,435袋(内、マイクロプラスチックに特化して回収したのは48袋)であった。各会場における収集したゴミ袋数(45Lのゴミ袋)と参加者数の内訳は表2.2のとおり。また、中堤会場で午後から開催した干潟の生きもの観察会には63名が参加した。

なお、参加団体および協力団体は以下であった。

#### <参加団体>

- 地元自治会—港区明德学区協議会、港区明德学区保健環境委員会、港区当知学区協議会、港区当知学区保健環境委員会、港区高木学区協議会、港区高木学区保健環境委員会、港区神宮寺学区協議会、港区神宮寺学区保健環境委員会、港区港西学区協議会、港区港西学区保健環境委員会、港区野跡学区協議会、港区野跡学区保健環境委員会、港区南陽学区協議会、港区南陽学区保健環境委員会、港区福田学区協議会、港区福田学区保健環境委員会
- 市民団体等—NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、三郷の川を美しくする会、日本野鳥の会愛知県支部、IPG(産業廃棄物専門家集団)、河川自然環境保全復元団体リバーサイドヒーローズ、庄内川ナビ歩こう会、土岐川・庄内川源流の森委員会、土岐川・庄内川流域ネットワーク、NPO法人藤前干潟を守る会、萌木舎、名古屋市野鳥観察館(東海・稲永ネットワーク)
- 会社・法人等—CMA CGM JAPAN株式会社、JFEエンジニアリング株式会社、NTT西日本 東海支店、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、愛知県保険医協会、あおみ建設株式会社名古屋支店、アジアプランニング株式会社、アジア航測株式会社、イオンスタイル名古屋茶屋、名古屋茶屋イオンチアーズクラブ、一般財団法人みなと総合研究財団、一般社団法人パブリックサービス名古屋事業所工務第一課、いであ株式会社名古屋支店、雨水利用と緑化を進める会、エクシオグループ株式会社、株式会社GE、株式会社エイテック、株式会社大本組名古屋支店、株式会社大增コンサルタンツ、株式会社おかむら、株式会社カノークス、株式会社栗本鐵工所名古屋支店、株式会社小島組、株式会社佐賀電算センター、株式会社空見スチールサービス、株式会社ダイセキ環境ソリューション、株式会社拓進工営、株式会社豊田自動織機課長会、株式会社豊田自動織機全社係長会、株式会社日さく西日本支社、株式会社橋本潜水興業、株式会社長谷工コーポレーション東海エリア長谷工グループ、株式会社坂角総本舗、株式会社不動テトラ、株式会社丸二運送、株式会社ローソン中部カンパニー、株式会社安江工務店、コズカテクノ株式会社、大日本土木株式会社、東亜建設工業株式会社名古屋支店、東海緑化株式会社、徳倉建設株式会社、豊田合成株式会社、豊田通商株式会社、トヨタ紡織株式会社、西松建設株式会社中部支店、日清製粉労働組合名古屋支部、日本振興株式会社、三重水熱工業株式会社、三菱電機トレーディング株式会社名古屋事業所、みなと医療生活協同組合、みらい建設工業株式会社中部支店、メタウォーター株式会社、愛知銀行、旭運輸株式会社、寄神建設株式会社名古屋支店、鴻池運輸株式会社名古屋定温流通センター営業所、三井住友海上火災保険株式会社、住友理工株式会社、水野建設株式会社、村本建設株式会社名古屋支店名友会、東京海上日動火災保険株式会社名古屋自動車営業1部、南医療生活協同組合、南陽おやじの会、日起建設株式会社、日産化学株式会社名古屋工場・日産物流(株)西日本支店物流センター、日比谷総合

設備グループ、日本栄船株式会社、日本道路株式会社中部支店名古屋営業所・エヌディリースシステム株式会社中部支社、名古屋汽船株式会社、郵船ロジスティクス株式会社、郵便局名古屋港部会

- 教育機関等—名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立南陽高校、中部大学ボランティア・NPOセンター、Ambiente（名城大学のサークル）
  - 行政機関・公共施設—愛知県建設局河川課、三重県環境生活部環境共生局大気・水環境課、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省庄内川河川事務所・庄内川第一出張所、名古屋港管理組合、名古屋市環境局環境企画課、名古屋市環境局港環境事務所、名古屋市稲永スポーツセンター（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）、名古屋市南陽プール（公益財団法人名古屋市教育スポーツ協会）
  - 議員等—愛知県議会議員直江弘文事務所、名古屋市議会議員吉田茂事務所
  - 報道—テレビ愛知（海と日本プロジェクトin愛知県）、あつたみなとホームニュース
- <協力団体>

仮設トイレ設置：大日本土木株式会社、ごみばさみ・拡声器提供：豊田合成株式会社、飲料水提供：イオンスタイル名古屋茶屋・藤前干潟ふれあい事業実行委員会（事務局：名古屋市環境局環境企画課）、ごみ袋提供：公益社団法人名古屋清港会・名古屋港管理組合、医師派遣：愛知県保険医協会、ビニールグローブ提供：I P G（産業廃棄物専門家集団）、AED貸出：港保健センター、駐車場提供：名古屋市環境局・名古屋市上下水道局打出水処理センター・名古屋市緑政土木局港土木事務所、会場整備：中川区正色学区消防団・庄内川安全協議会、ごみ処理：名古屋市環境局港環境事業所、その他：国土交通省庄内川河川事務所・環境省中部地方環境事務所・愛知県尾張建設事務所・名古屋市環境局・港区役所

実施場所	ゴミ数量(45L・袋)				粗大ゴミ		参加者(名)				うち庄内川 災害対策 協力会
	不燃物	資源 (発火性 危険物)	可燃物	計	主なゴミ	計	学区	一般	行政	計	
明德学区	6		35	41	ソファ 手押し車の部品?	1個 1個	54		2	56	24
当知学区	2	2	10	14	TV タイヤ フライパン等	1台 3本	54		2	56	24
高木学区	11	4	13	28	椅子	1個	56		2	58	26
神宮寺学区	9	2	23	34	傘 炊飯器 流木	1個 1台	64		2	66	計74
港西学区	8	1	27	36			68		2	70	
野跡学区	8	1	57	66			129		3	132	
当知陸間 小計	44	10	165	219							
福田学区	1	1	200	202				19		19	
南陽① 福田ポンプ所前	7	3	56	66				48		48	
南陽② 南陽大橋 堤防下道路	13	1	148	162	プラボックス	3個		82		82	
港区参加 学区関係 小計	65	15	569	649	内マイクロプラス ティッカー48		574	0	13	587	
中堤	34	14	478	526				379	2	381	
藤前第1	8	3	233	244				1040		1,040	
藤前第2	1	1	14	16							
藤前第3				0							
藤前・中堤 小計	43	18	725	786			0	1,419	2	1,421	
合計	108	33	1,294	1,435			574	1,419	15	2,008	

表2. 2 第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦における各会場における収集したごみ袋数(45Lのご

## み袋)と参加者数等

### (3) 三郷のクリーン大作戦

当実行委員会より3名が参加した。

### (4) 第10回ごみと水を考える集い

午前中に行ったエクスカージョンには22名が参加し、午後からの集いには市民団体、教育機関、行政機関、企業等からあわせて38団体82名が参加した。集いでは日本海鳥グループの越智大介氏より「漁業における問題～混獲と海洋ごみ～」のお話を聞いた後、「釣りごみ問題について」現状の発表と意見交換を行った。また、集いの最後には、ごみが生まれない社会づくりを目指すアピール7項目を採択した。採択したアピール文と参加団体は以下のとおり（集いの講演および発表内容等は別紙5配布資料参照）。

＜アピール文と参加団体＞※藤前干潟クリーン大作戦実行委員会のホームページに掲載

## 第11回ごみと水を考える集いからのアピール

本日、名古屋市港区の藤前会館に山、川、里、海で活動する市民団体・教育機関・企業・行政等 38団体、82人が参加して、第11回「ごみと水を考える集い」を開催しました。

私たちは、日本海鳥グループの越智大介氏の「漁業における問題～混獲と海洋ごみ～」の講演で藤前干潟や伊勢・三河湾とつながる海において混獲や海洋ごみによって多くの生きものが被害にあっている現状を知り、私たちができることについても学びました。

また、「釣りごみ問題について」の発表と交流では、コロナ禍を機に釣りごみが増えた藤前干潟の現状や活動を共有した後、四日市や谷津干潟などの他湿地における釣りごみの状況や対策について情報交換し、さらに今後、望まれる活動について意見を交えました。

本日の参加者は「第11回ごみと水を考える集い」の参加をとおして、改めて自らのフィールドでの取組みの大切さと、伊勢・三河湾流域圏一体の清掃活動の強化と啓発活動が重要なことを再認識しました。今後も「ごみが生まれない社会づくり」の実現を目指しましょう。

私たちは、以下の7項目を呼びかけます。

- 子どもたちが安心して元気に遊べる水辺を取り戻しましょう。
- たくさんの生きものたちが生息する場を取り戻しましょう。
- ごみを見つけたら勇気を出して拾いましょう。
- ごみを捨てない大人と子どもをはぐくみましょう。
- ごみが生まれない社会をつくりましょう。
- 山、川、里、海それぞれで活動する人どうしの繋がりをつくりましょう。
- 流域全体で人と自然が共生する環境をつくりましょう。

2024年2月3日

第11回 藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い参加者一同

＜アピールを採択した第11回ごみと水を考える会に参加した教育機関・企業・市民団体等＞  
四日市大学環境情報学部、愛知県立大学野鳥サークルとりとり隊、愛知県立惟信高等学校、中部大学NPO・ボランティアセンター、南陽学区青パト防犯パトロール隊、港鯯城会、北鯯城会、瑞穂鯯城会、鯯城・堀川と生活を考える会、日本海鳥グループ、谷津干潟ユースプロジェクト、WATERSIDE CONTROL、一般財団法人みなと総合研究財団、NPO法人伊勢湾フォーラム、松並木つくり隊、サラヤエスピーエス株式会社、株式会社地域環境計画、SAVE the Ocean株式会社、NPO法人四日市ウミガメ保存会、ウミガメネットワーク三重、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO法人土岐川・庄内川サポートセンター、萌木舎、土岐川・庄内川流域ネットワーク、土岐川・庄内川源流の森委員会、名古屋市野鳥観察館（東海・稲永ネットワーク）、NPO法人藤前干潟を守る会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

＜第11回ごみと水を考える会参加の行政・公的機関＞

名古屋市会、愛知県尾張建設事務所、愛知県資源循環推進課、三重県環境生活部大気・水環境課、名古屋市環境局環境企画課、環境省中部地方環境事務所、環境省中部地方環境事務所名古屋自然保護官事務所、国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所、名古屋港管理組合港営部港営課、名古屋港管理組合企画調整室

## 2.3.2 活動時の様子(写真)

(1) 第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙7も参照のこと)



写真2.1 藤前会場の受付(助成の掲示)



写真2.2 藤前会場の受付のアナウンス



写真2.3 藤前会場の清掃活動①



写真2.4 藤前会場の清掃活動②



写真2.5 藤前会場のごみ収集所



写真2.6 藤前会場で収集したごみ



写真2.7 南陽学区会場の清掃活動



写真2.8 南陽学区会場の清掃活動



写真2.9 藤前会場のマイクロプラスチック収集①



写真2.10 藤前会場のマイクロプラスチック収集②



写真2.11 藤前干潟に堆積するマイクロプラスチック



写真2.12 マイクロプラスチック啓発パネル



写真2.13 藤前会場で行った水質調査①



写真2.14 藤前会場で行った水質調査②

【今回の水質調査の結果】

地点	透視度	COD	pH	ORP	EC	塩分	臭い
恵那	100cm	2mg/L	8.3	-1.2V	0.08 200%	0.0%	なし
多治見	51.5cm	7mg/L	8.2	-1.2V	0.28 400%	0.0%	なし
名古屋 北区				-9			無し
名古屋 中川区	95.8cm	4mg/L	6.2	-1.2V	17.3 400%	1.0%	どうせのにおい に悪い
名古屋 港区	98.7cm	3mg/L	6.2	-0.76V	20.0 400%	2.01%	少しにおい

写真2.15 水質調査の結果

【今回の水質調査から分かったこと】

- ・先日の雨により、恵那と多治見の間のダムの水が放流され、多治見の水が汚染されていた
- ・透視度とCODの観点から見て、下流の方がきれい
- ・恵那のpHが大きいのは土のミネラル分が多いから
- ・ORPの計測器が壊れていた

柴田大真 杉浦彰一  
調査員：坂村隼 佐藤蒼大 半田結大

写真2.16 水質調査から分かったこと

(2) 第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦 (別紙8も参照のこと)



写真2.17中堤会場の受付(助成の掲示)



写真2.18中堤会場の受付



写真2.19中堤会場の清掃場所に向かう参加者



写真2.20中堤会場におけるバス移動



写真2.21清掃活動前の説明



写真2.22中堤会場の清掃活動①



写真2.23中堤会場の清掃活動②



写真2.24中堤会場の清掃活動③



写真2.25中堤会場で収集したごみ①



写真2.26中堤会場で収集したごみ②



写真2.27藤前会場の受付と清掃場所



写真2.28藤前会場の清掃活動①



写真2.29藤前会場の清掃活動②



写真2.30藤前会場のごみ収集所①



写真2.31藤前会場のごみ収集所②



写真2.32中堤会場で行った水質調査①



写真2.33中堤会場で行った水質調査②

【今回の水質調査の結果】						
	透視度	COD	PH	EC	塩分	臭い
②多治見	100cm	<del>7.0</del> 6	7.0	0.15	0.00	落
③水分橋	68.5cm	<del>7.0</del> 8以上	7.0	0.63	0.01	ツーン 温泉
④明德橋	75.5cm	8以上	7.0	<del>56.69</del> 18.89	0.93	濁
⑤庄内大橋	78.2cm	6	7.5	20.00	1.17	下水 濁

写真2.34水質調査の結果



写真2.35中堤会場の干潟の生きもの観察会①



写真2.36中堤会場の干潟の生きもの観察会②



写真2.37中堤会場の干潟の生きもの観察会③

(3) 第11回ごみと水を考える集い



写真2.38エクスカーション(稲永ビジターセンター)



写真2.39エクスカーション(名古屋市野鳥観察館)



写真2.40集い会場の様子

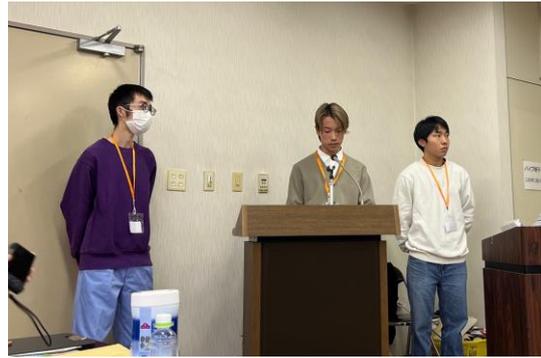


写真2.41司会等を担当した中部大学の学生



(上左) 写真2.42国土交通省庄内川河川事務所長の挨拶



(上右) 写真2.43環境省中部地方環境事務所次長の挨拶



(上左) 写真2.44愛知県尾張建設事務所維持管理課長代理の挨拶



(上右) 写真2.45名古屋市環境局環境企画課主幹の挨拶



(上左) 写真2.46日本海鳥グループの越智大介氏(左)による講演



(上右) 写真2.47釣りごみに関する発表と意見交換



(上左) 写真2.48 NPO法人藤前干潟を守る会 間部裕子氏の藤前干潟の釣りごみ対策等の発表

(上右) 写真2.49 NPO法人藤前干潟を守る会 ユースの加藤翔太氏の釣りごみの現状の発表



(上左) 写真2.50 WATERSIDE CONTROL代表の伊藤正博氏の釣りごみに対する活動の発表

(上右) 写真2.51 ウミガメネットワーク三重の米川弥寿代氏のウミガメ被害の発表



(上左) 写真2.52 谷津干潟ユースプロジェクトの岩崎結芽氏の谷津干潟での規制や活動の発表

(上右) 写真2.53 22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の千葉賢副委員長からの閉会の言葉

### 3. 事業・活動の効果等

#### 3.1 活動の広がり、効果

##### (1) 藤前干潟クリーン大作戦

当実行委員会の最も大きな活動である大規模ごみ清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」については、2023年度も予定していた2回の藤前干潟クリーン大作戦を無事開催することができ、2023年度の清掃活動の参加者数は計3,540人(延べ)、収集したごみは45Lごみ袋で計2,332

袋であった。

2023年度は、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから、今までボランティア活動等を自粛していた企業、団体が活動を本格的に再開し、第38回'23春および第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦ともにそれぞれ前年度の同時期の活動より大きく参加者数が増えた。特に第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦は、大企業の大人数での参加が複数あったことなどから、参加者は2,000名を超えた。

また、地元学区および市民団体、企業、行政の参加、協力はコロナ禍以前と同様に継続され、岐阜県や三重県など伊勢湾流域の参加も継続した。コロナ禍を経ても参加人数や団体が減らなかったことは、今まで地道に長い間活動を続けてきたこと、コロナ禍においても関係者で丁寧な議論を重ねながらできることを工夫して行ってきたことが理由と考えている。

さらに、前年の2022年度は藤前干潟がラムサール条約に登録されて20周年ということで、藤前干潟の自然の魅力や現状が報道される機会が増え、その影響で藤前干潟のごみ問題に関心を持ったという若い世代の参加も増えたと感じている。

藤前干潟のごみの状況については、2023年度は春の清掃活動で897袋（45Lのごみ袋）、秋の清掃活動で1,435袋（同）ものごみを収集し、河川環境を改善することができた。また、これらの多くのごみが藤前干潟の先の伊勢湾（海）に流れるのを防ぐことができたと考えている。

また、藤前干潟クリーン大作戦の特徴は、地元住民、市民団体、教育機関、行政機関、企業、個人等の多種多様な立場の多くの人々が参加、協力していることである。これらの人々が同じ場所で同じ活動をすることで、交流が生まれている。

今後もラムサール条約に恥じない、ごみのない藤前干潟を目指し、できるだけ多くのごみを回収して、河川、干潟、ヨシ原の保全を図るとともに、多くの人が交流しながら藤前干潟を知ることのできる場として藤前干潟クリーン大作戦の活動を継続していきたい。

## (2) マイクロプラスチックに関する新たな取組み

2023年度の藤前干潟クリーン大作戦では、近年世界的な問題となっているマイクロプラスチックについての活動を進めることができた。2021年度には名古屋市環境局が行ったマイクロプラスチック調査に協力し、2022年度は試験的にマイクロプラスチックを収集するとともに、第10回ごみと水を考える集いでマイクロプラスチック問題について専門家から現状や課題を学ぶなどしてきた。2023年度は地元にある愛知県立南陽高等学校の生徒や一般参加者に呼び掛けて、大規模にマイクロプラスチックごみを収集した。大きさが5mm以下という小さなマイクロプラスチックごみを1つずつ拾い集めるのは非常に労力がかかるため、ごみ処理を担当している名古屋市港環境事業所に相談し、マイクロプラスチックが堆積しているヨシくずや少量の土などもあわせて回収し（写真2.11）、そのまま全てごみ袋に入れて回収、処理してもらうことができた。マイクロプラスチック収集に参加した南陽高等学校生や一般参加者には、マイクロプラスチックの問題点やマイクロプラスチックの種類、マイクロプラスチックの収集方法等を説明した後、収集にあたってもらった。その結果、2023年度の春の清掃活動で81袋（45Lのごみ袋）、秋の清掃活動で48袋（同）のマイクロプラスチック（ヨシくずや土などを含む）を回収することができた。マイクロプラスチックについて説明する前の参加者の目にはペットボトルなどの大きなごみしか見えていないが、説明後、マイクロプラスチックの存在を知ると、「小さなごみがとても気になるようになった。しかし、全て回

収めるのは途方もない。ごみが発生しないようにすることが大事だと感じた。」という声なども聞かれた。マイクロプラスチック収集を進めるとともに、マイクロプラスチック問題の普及啓発もできたと感じている。

#### (2) 流域間等の交流（三郷の川のクリーン大作戦、ごみと水を考える集い）

2023年度は藤前干潟に注ぐ土岐川・庄内川の最上流にある岐阜県恵那市で開催された「三郷の川のクリーン大作戦」に少人数ではあるものの継続参加し、地域で活動する人々と交流し、お互いの活動について情報交換することができた。

また、11回目となる「ごみと水を考える集い」を開催し、藤前干潟や流域で活動をしている団体および個人の82名が集まり、一般にはあまり知られていない漁業における混獲や海洋ごみについて専門家（日本海鳥グループの越智大介氏）から話を聞き、藤前干潟や伊勢・三河湾とつながる海の問題について知り、考えた。また、コロナ禍を機に大きくなった釣りごみの問題について、藤前干潟や他地域での事例を紹介し、意見交換を行った。

混獲や漁業の海洋ごみについては参加者からは、「初めて知ることがあった、自分ができることを考えたい」という感想があり、海の問題を普及し、さらには行動に移してもらいきっかけづくりができたと考えている。釣りごみ問題については、「藤前干潟だけでなく、他地域や違う立場の方からお話を聞くことができ良かった」という感想があり、川や海でつながる広域におけるごみや水のことを一緒に考えることができたと感じている（参加者の感想は別紙6の第11回ごみと水を考える集いアンケート集計結果参照）。

#### (4) 報道について

2023年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道は以下の2件だった（それぞれの詳細は別紙9）。

- ① 7月14日CHUNICHIハピなびなごや掲載
- ② 12月23日あつた・みたとホームニュース掲載

### 3.2 計画の妥当性

2023年度は計画していた2回の大規模清掃活動（「第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦」および「第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦」）、土岐川・庄内川最上流の清掃活動「三郷の川のクリーン大作戦への参加」、そして「第11回ごみと水を考える集い」を多くの協力を得て無事行うことができた。

大規模清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」の計画にあたっては、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことから参加者が増えることを想定し、より多くの駐車場の確保とスムーズな駐車誘導の準備、車の相乗りの呼びかけなどの対策を念入りに行うとともに、清掃時の安全確保について関係者と打合せを重ねた。

実際に、第38回'23春および第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦ともにそれぞれ前年度の同時期の活動より大きく参加者数が増え、駐車場が満車となった。駐車場の確保については今後も課題になっていくが、第38回'23春のクリーン大作戦の参加者数は1,532名、第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦の参加者数は2,008名となり、この活動を通して前年度よりも多くの参加者が藤前干潟のごみと水の現状を知り、河川環境保全やごみについて考える機会を提供できたと考えている。

流域の抱える問題の現状と交流を深めとを主目的として開催した「第11回ごみと水を考える集い」には、82名もの多くの参加者があった。藤前干潟や伊勢・三河湾とつながる海の現状や課題を共有し、それぞれができることを考えることができた集いとなった。

これらを踏まえ、2023年度の活動の計画は概ね妥当であったと考える。

### 3.3 目標に対する到達状況

成果目標として「藤前干潟の清掃活動を継続する」、「マイクロプラスチックや釣りごみ等の新たに問題となったごみを減らす」、「藤前干潟や流域の現状を広め、生活や社会から出るごみについて考え行動する機会を提供し、流域の河川環境保全を推進する」を掲げていた。

20年目の活動となった2023年度も2回の大規模清掃「藤前干潟クリーン大作戦」を計3,540人（延べ）の参加者と一緒に実施し、清掃活動を継続することができた。

マイクロプラスチックについては藤前干潟クリーン大作戦の中で大規模な収集を行うことができ、計129袋（45Lのごみ袋）を藤前干潟から取り除くことができた。釣りごみについては、「第11回ごみと水を考える集い」において、釣りごみの現状と対策について取り上げ、藤前干潟や他地域の活動に関わる人々が意見交換をし、それぞれができることを考える場を提供することができた。

また、上記の藤前干潟クリーン大作戦と第11回ごみと水を考える集い等の活動を通して、藤前干潟や流域、海のごみ等の現状を見て、知って、考えて、行動する機会を非常に多くの人に提供でき、流域の河川環境保全の推進に貢献できたと考えている。

今後も活動を継続し、藤前干潟とその流域のごみ削減と環境保全についての普及啓発を進めていきたい。

### 3.4 河川管理者等との連携状況

藤前干潟に注ぐ土岐川・庄内川の河川管理者である国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所からは、当実行委員会は河川協力団体として認定を受けており、活動に対して支援を受けている。当実行委員会の発足時から打合せに出席いただいている他、適切な指導やアドバイスを受けるとともに、河川状況や工事などの情報交換を頻繁に行い、「協働」の立場で河川環境の改善や保全を進めている。

また、同じく藤前干潟に注ぐ新川と日光川の河川管理者である愛知県尾張建設事務所にも活動開始時から協力やアドバイスを得ており、スムーズに安全に清掃活動ができるよう配慮いただいている。

さらに、藤前干潟は国指定鳥獣保護区であり、環境省の公共施設（藤前干潟活動センターおよび稲永ビジターセンター）や自然保護官事務所があることから、環境省中部地方環境事務所にも協力を得ており、生物保全や干潟観察会などのアドバイスを得たり、講師対応を依頼したりしている。

この他、名古屋市とも非常に深く連携しており、港環境事業所には大量のごみの回収と処理をしていただいている。また、環境局は藤前干潟の普及啓発事業を多く実施しているが、環境局が事務局を務める「藤前干潟ふれあい事業実行委員会」の協力事業として藤前干潟クリーン大作戦を位置づけていただいている。熱中症対策物資提供や駐車場の提供等の協力を得ている。今後も上記の機関等とより良い関係を維持し、協力を得られるよう努力していく。

### 3.5 今後の展望

長年にわたって継続してきた活動と多くの関係者の協力により、地元住民および流域の恒例行事として定着してきた清掃活動「藤前干潟クリーン大作戦」は、コロナ禍を経ても参加者が減らず、嬉しいことに参加者が増えている傾向にある。一方で、実行委員会の構成団体や関係団体のメンバーには高齢化という問題が押し寄せ始めている。実行委員会の運営の一部を担える若い世代の新規の参入を目指し続けるとともに、負担軽減策を今後も工夫して考え、活動が継続できる体制を整えていきたい。

また、新たに取組みはじめたマイクロプラスチックや釣りごみへの取組も継続し、地域や流域の関係者とともに関係させて、藤前干潟とその流域のごみ削減を主とする環境改善とごみの生まれにくい社会づくりへの貢献を目指していく。

#### 【参考資料】

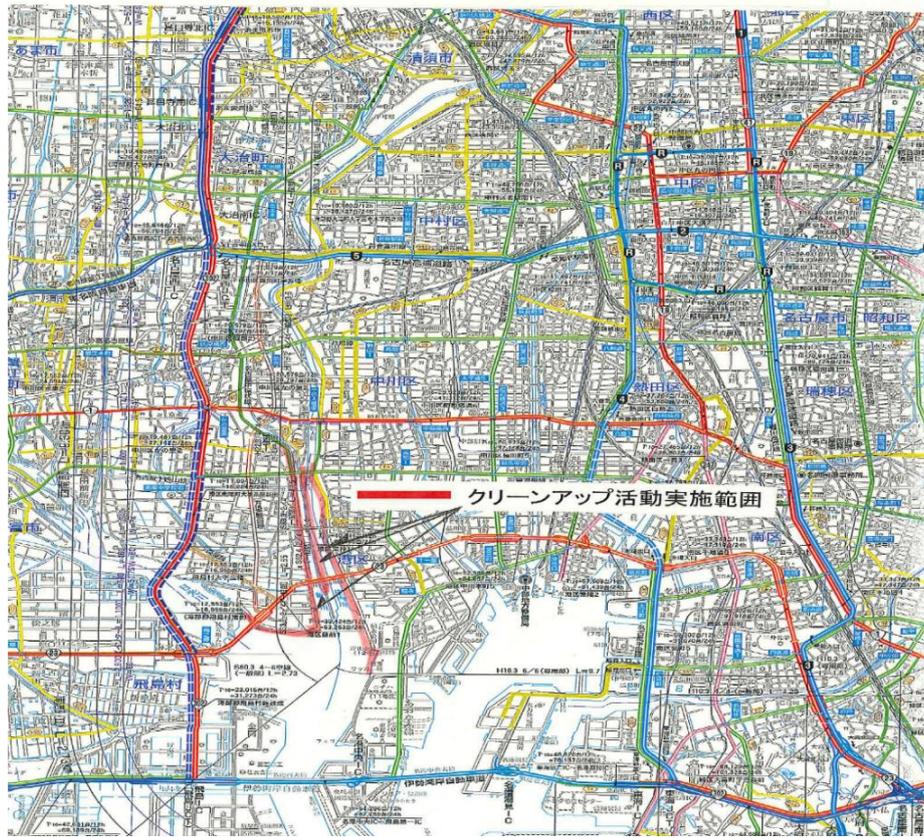
- 別紙 1 : 藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の歩みとこれまで取り組んだ活動
- 別紙 2 : 第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ
- 別紙 3 : 第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦の案内チラシ
- 別紙 4 : 第11回ごみと水を考える集いの案内チラシ
- 別紙 5 : 第11回ごみと水を考える集いの配布資料
- 別紙 6 : 第11回ごみと水を考える集いのアンケート集計結果
- 別紙 7 : 国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第38回'23春の藤前干潟クリーン大作戦の報告書
- 別紙 8 : 国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所による第39回'23秋の藤前干潟クリーン大作戦の報告書
- 別紙 9 : 2023年度の藤前干潟クリーン大作戦実行委員会の活動に関わる報道

以上

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2023-6112-016	藤前干潟クリーン大作戦・流域圏交流事業	藤前干潟クリーン大作戦実行委員会 実行委員長 坂野一博
主な実施箇所	藤前干潟クリーン大作戦実施会場： 藤前干潟周辺（下図参照） 三郷の川のクリーン大作戦会場： 岐阜県恵那市三郷町野井川 第 11 回ごみと水を考える集い会場： 藤前会館（名古屋市港区）	

助成事業の主な実施箇所

藤前干潟クリーン大作戦実施箇所 位置図



遠景

近景

第 11 回ごみと水を考える集いにて

第 39 回 ‘23 秋の藤前干潟クリーン大作戦にて



河川基金ロゴ等表示状況写真